

“痛み”への多角的なアプローチを専門チームで提供する

特集

神経・疼痛ケアユニット

疼痛疾患

頭痛

認知症

もの忘れ

末梢神経疾患

しびれ

脳血管障害

めまい

神経免疫疾患

ふるえ

機能的疾患

ふらつく

呂律

脊髄刺激療法

硬膜外ブロック

脊柱管狭窄症

神経根ブロック

アルツハイマー病

抗アミロイドβ抗体治療
(レカネマブ・ドナネマブ)

帯状疱疹後神経痛

緩和ケア

脊髄鎮痛

パーキンソン病

L-DOPA持続皮下注入療法

がん性疼痛

内臓神経ブロック

視神経脊髄炎
スペクトル疾患

脊髄神経疾患

再発抑制療法

神経内視鏡手術

末梢動脈障害

脳腫瘍

BNCT

ガンマYグロブリン療法

難治性重症筋無力症

水頭症

脳卒中

ステント留置術

分子標的薬治療

シャント術

コイル塞栓術

Super Smart Hospital Project

2026 年頭のご挨拶



病院長

広域医療連携センター
センター長
勝間田 敬弘

2026年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆様のお力添えを賜り、昨年7月に本院の病院新本館がグランドオープンを迎えました。

患者さん中心の医療を目指し、複数の診療科が連携する臓器別・疾患別ユニット外来の設置や、初診から退院後まで一貫した受診支援、待ち時間短縮機能など、患者さんがより快適に受診できる環境が整いました。2022年7月に設置された三次救急診療機能を持つ救命救急センターや先進的ながん診療を提供するがん医療総合センターは既に順調に機能しています。

私たちは、医療の質は医療者の質と捉え、患者さんと医療者、医療サービス、医療情報が密接に連携することで医療の質が高まると考えています。患者さんへのきめ細やかな配慮と手厚い診療を通じて、「寄り添う」温かい病院を目指します。

昨今、この国の医療は過渡期に差し掛かった靚があります。生産年齢人口が減少する中、労働力の確保や診療環境の整備など、様々な局面で重い課題が山積しています。この難局を乗り越え、上質な診療サービスを継続的に社会に提供できるよう、大学病院として一層努めてまいります。

本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

連携特集

脳疾患をはじめとする様々な症状に、「神経」・「痛み」の視点から、スペシャリストがユニットでアプローチします

脳神経外科・脳血管内治療科

全領域でトップクラスの術者が対応、24時間
ホットライン受付も実施しています



脳神経外科・脳血管内治療科
科長 鰐淵 昌彦
(わにぶち まさひこ)

平素より脳神経外科・脳血管内治療科のご理解、ならびに多大なるご支援、誠にありがとうございます。当科は脳・脊髄疾患に対して外科的側面から治療しております。診療領域は、脳腫瘍、脊髄腫瘍、脳血管内治療、小児脳神経外科、三叉神経痛や片側顔面痙攣に代表される神経圧迫症候群、ならびに頭部外傷など広範囲に渡っており、全領域で全国トップクラスの術者が対応しています。また、ホットラインで24時間受付も実施していますので、いつでもご相談ください。何卒よろしくお願い致します。

365日
24時間
対応

脳卒中ホットライン
緊急時、当院の医師が直接ご相談承ります

医療関係者専用電話

適切な治療を早期に開始するために、各関係診療科が密に連携してすべての脳卒中の患者さんを受け入れます。



麻酔科・ペインクリニック



麻酔科・
ペインクリニック



診療担当表

“痛みは我慢してはいけない”



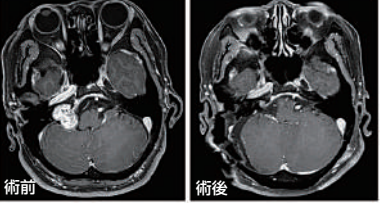
麻酔科・ペインクリニック
科長 間嶋 望
(ましま のぞみ)

麻酔科・ペインクリニックではペインクリニック外来を行っています。成人の慢性痛に対する薬物療法や神経ブロックだけでなく西洋医学に東洋医学を組み合わせた治療、子どもの慢性痛に対する集学的治療、難治性がん性疼痛患者の神経ブロックや脊髄鎮痛法など幅広く痛みの治療を行っています。

痛みでお困りの患者さんがいらしゃいましたらどうぞご紹介ください。

良 性 脳 腫 瘍

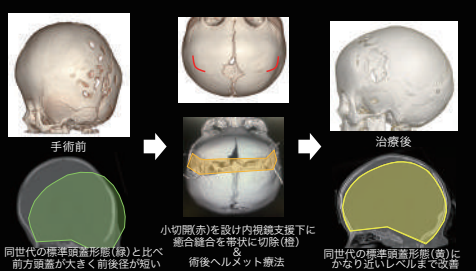
髄膜腫や神経鞘腫など良性脳腫瘍の多くは手術による摘出が治療の第一選択となります。当科では、特に**手術難易度の高い頭蓋底腫瘍に対しても積極的に手術**を行っています。術中CT、ナビゲーションシステム、神経モニタリングなどを使用し精度の高い手術を行っています。腫瘍の伸展状態によっては耳鼻科や形成外科と合同で手術を行い、各科の専門性を駆使して手術を行うこともあります。また、摘出による合併症リスクが高いと判断した場合には、腫瘍を残存させ、必要に応じて放射線腫瘍科と相談し、残存腫瘍には放射線治療も検討します。このように**高難度良性脳腫瘍症例**に対して**も安全を優先して手術加療**を行っています。



術前 術後
頭静脈孔神経鞘腫

小児脳神経疾患

小児脳神経外科では、関係する各診療科と密接に連携し、新生児期から小児期に特有の脳・脊髄疾患に専門的に対応しています。とくに、**頭蓋骨縫合早期癒合症、くも膜のう胞、脊髄髄膜瘤や脊髄脂肪腫に代表される二分脊椎など、成長発達に影響を及ぼす疾患**に対しては、最適な治療時期を見極めた手術介入を行っています。また、当科は内視鏡下脳腫瘍摘出術・生検術の認定施設として、内視鏡技術を活用した低侵襲手術に取り組んでいます。閉塞性水頭症を合併した小児脳腫瘍に対する内視鏡下腫瘍生検術と第3脳室底開窓術(ETV)の併用、くも膜のう胞に対する内視鏡下のう胞開窓術、頭蓋骨縫合早期癒合症に対する内視鏡下縫合切除術などを積極的に行っております。**お子さんの将来的なQOLと発達を考慮し、より安全で効果的な治療**を目指しています。



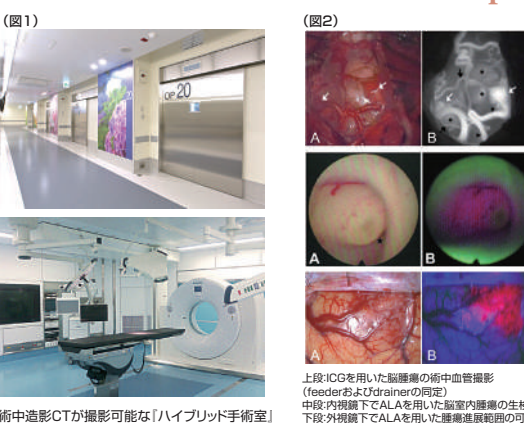
頭蓋骨縫合早期癒合症に対する
内視鏡下縫合切除術

悪 性 脳 腫 瘍

悪性脳腫瘍の手術は、術中造影CT撮影を行うことで、手術の進捗に応じてナビゲーション画像を最新の状態に更新できる「ハイブリッド手術室」で実施しています(図1)。さらに、神経内視鏡や外視鏡機能を備えた最新の手術顕微鏡を、脳腫瘍の存在部位や広がりに応じて使い分けるとともに、**光感受性物質を使用した「術中蛍光診断」**を駆使することで、**腫瘍を安全かつ最大限に摘出する手術**を行っています。

具体的には、脳微細血管の血流を描出できるインドシアニンググリーン(ICG)を用いて、血管径0.5mm未満の動脈交通枝を温存したり、悪性腫瘍組織に選択的に蓄積して赤色蛍光を発するアミノレブリン酸(5-ALA)を術前に投与することで腫瘍の取り残し防止に役立っています(図2)。特に、ICGを利用して脳血管内の血流を可視化する手術顕微鏡は、当科が世界に先駆けて研究開発したもので(Kuroiwa T. et al. Minim Invas Neurosurg. 2001)、脳外科手術における有用性が世界的に認められ、現在ではZeiss社やLeica社の市販顕微鏡にもその機能が実装されています。

また、言語野近傍に存在する脳腫瘍に対しては「覚醒下手術」を実施し、**言語機能を担う皮質および白質線維を温存することで、術後後遺症を生じさせないことを最優先とした腫瘍摘出**を行っています。

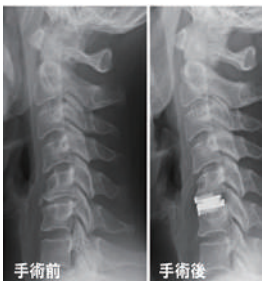


(図1) 術中造影CTが撮影可能な「ハイブリッド手術室」
(図2) 1. ICGを用いた脳血管の術中造影(ReaderおよびDrainageの両面)
2. 中級内視鏡下でALAを用いた脳室内腫瘍の生検
3. 下級外視鏡下でALAを用いた腫瘍近接範囲の可視化

脊 髄 神 経 疾 患

脊椎脊髄疾患の手術治療は脳神経外科と整形外科が重複する分野であり、お互いの診療基盤の利点を生かしながら手術精度・安全性の向上に努めています。脳神経外科診療における脊椎脊髄手術では、**顕微鏡による手術精度の向上が手術成績向上の原動力**となり発展してきました。最近の技術革新においては、**内視鏡・外視鏡手術の導入、脊椎内固定技術の低侵襲化、蛍光観察技術・ナビゲーション・神経モニタリングの標準化、頸椎人工椎間板置換術の導入**などがあります。

当科では、脊椎脊髄疾患を専門的に取り扱っており(日本脊髄外科学会技術指導医、脊椎脊髄外科専門医・研修施設)、高度な手術を安全に提供できる体制を構築しております。



手術前 手術後

緩和ケア外来



緩和ケア外来

患者さんやご家族の抱える痛みやつらさに全人的なケアを



緩和ケアセンター
副センター長
浅石 健
(あさい けん)

緩和ケア外来では、患者さんや家族が抱える様々な苦痛に対してサポートを行っています。特に痛みについては、薬物治療だけでなく、症状や部位に応じて神経ブロックなどの専門的アプローチが有効となる場合もあり、麻酔科(ペインクリニック)と緊密に連携して診療を行っています。新棟移転後は、緩和ケアと麻酔科が同一ユニット内で協働できる体制が整い、より円滑に相談・介入が可能となりました。

また、緩和ケア外来では、**がんや慢性疾患に伴う「痛みなど身体の不ささ」「気持ちのつらさ」「生活の困りごと**」などを抱える患者さんとご家族に対し、医師・看護師・薬剤師・公認心理師など多職種が連携し、各診療科・他部門とも協働して**全人的なケア**を行っています。治療中の患者さんが安心して通院し、できるだけその人らしく過ごせるように支援することを目標に、スタッフ一同取り組んでいます。

多職種の幅広い視点を活かし、患者さんの苦痛緩和に一層貢献してまいります。今後とも地域の先生方のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※当外来単独では紹介をお受けしておりません。



脳神経内科



脳神経内科



診療担当表

屈指の実績
神経難病
年間1000名以上の診療実績

■パーキンソン病・類縁疾患
約400名

■重症筋無力症
約350名

■多発性硬化症/視神経脊髄炎
約200名

■ALS/脊髄小脳変性症
約100名

アルツハイマー病の
最新抗体療法
70名以上の治療実績



脳神経内科
科長 荒若 繁樹
(あらわ しげき)

神経・筋疾患を疑う際は、当科にご紹介ください。Common diseaseから認知症・変性疾患まで最適な治療法を考えていきます。「明るく真摯に」をモットーに診療に取り組みます。

新患・一般再来

新患外来では、神経内科専門医が知識と経験を動員して診療にあたります。**しっかりと診断が治療の第一歩です。**筋力低下、ふらつき、頭痛、めまい、言葉が出にくい、飲み込みにくいなどの神経系異常を疑う際は、ご相談ください。一般再来では、症状を評価しながら薬剤調整などを丁寧に行わせていただきます。

Topic

パーキンソン病外来

パーキンソン病は、**症状に応じて最適な治療を選択することが重要**です。経験豊富な医師が診療にあたります。進行期の方にレボドパ持続皮下注入療法といったデバイス療法の導入も行っております。

Topic

末梢神経障害

末梢神経障害の原因検索を行います。その中の一つである**慢性炎症性脱髄性多発神経炎**では、**γ-グロブリン療法によって症状の軽減**が期待できます。しびれる、力が入りにくいといった症状があるときは、ご相談ください。

Topic

免疫性神経疾患外来

重症筋無力症、多発性硬化症/視神経脊髄炎は、分子標的薬の登場で予後が劇的に改善されました。治療にあたっては、しっかりと副作用の対策をとる必要があります。経験・知識の豊富な医師が、治療にあたらせていただきます。

Topic

髄膜炎・脳炎

髄膜炎・脳炎の診断と治療を積極的に行っています。急な頭痛やめまい、発熱を伴うといった症状があるときは、思わぬ病気が隠れていることがあります。早期診断と治療介入に専門性が発揮される領域です。疑われる際は是非ご相談ください。

Topic

もの忘れ外来(脳神経内科)



もの忘れ外来
(脳神経内科)

麻酔科・ペインクリニック



麻酔科・
ペインクリニック



診療担当表

もの忘れ外来(精神神経科)



もの忘れ外来
(精神神経科)

もの忘れ外来(脳神経内科)



もの忘れ外来
(脳神経内科)

がん性疼痛の
神経ブロック

薬物療法では疼痛緩和が困難な患者さんに対し、神経ブロックを行っています。神経ブロックは疼痛の緩和とオピオイド量を減少させます。疼痛を緩和し、患者さんが穏やかな時間を過ごせるよう尽力してまいります。



透視下神経ブロック

当科のペインクリニック外来は透視室を併設しており責任神経や病変に対し、X線透視下神経ブロックを迅速に行うことで疼痛を緩和する体制を整えています。



精神神経科

もの忘れが気になったら、どうぞ一人で悩まずに

当科のもの忘れ外来では、認知症診療に精通した専門医が中心となり、10数年前より体系的で精度の高い診断体制を構築してきました。採血、脳波、MRIなどの基本的な検査に加え、**心理検査や脳機能検査を症状や経過に応じて組み合わせ、多角的に評価**を行います。若年性認知症など認知症のみならず、正常圧水頭症、内分泌異常、脳腫瘍、神経変性疾患、ビタミン欠乏症など治療可能な原因を**早期に見極め、適切な治療につなげる**ことを重視しています。2泊3日の検査入院にも対応しており、軽度アルツハイマー型認知症や軽度認知障害(MCI)が疑われる場合には、脳神経内科と連携し最新治療の適応判断を行います。

※初診は精神神経科外来、一部の再診患者さんを本ユニットで対応します。

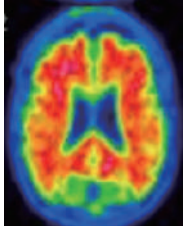


精神神経科
医長
西澤 由貴
(にしざわ ようき)

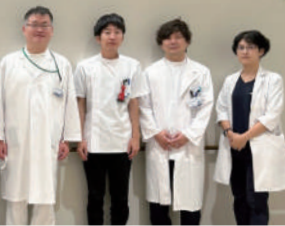
脳神経内科

豊富な実績をもとにアルツハイマー病の進行を抑える最新治療を積極的に導入

抗アミロイドβ抗体治療は、アルツハイマー病に伴う軽度認知障害および軽症認知症に対して進行を抑える効果があります。最新の知見では、**より早期に治療を開始するほど進行抑制の効果が高まる**ことが知られています。さらに、**治療効果は長期にわたって拡大していく**ことが示されています。当科では、詳細な認知機能検査、アミロイドPET検査(右図)を実施し、治療の対象となる方を見逃さないように努めています。「同じことをすぐに尋ねる」、「買い忘れをする」、「日時を間違う」、「やる気が失われてきた」、「1年程度前にできたことができなくなった」といったことが見られるときは、軽度認知障害の可能性があります。症状が重くなる前にご相談ください。患者さんご家族のライフスタイルに合った治療の選択(レカネマブ・ドナマブ)をお手伝いし、地域ネットワークの協力を得ながら治療を行わせていただきます。



アミロイドPETによる
アミロイドβプラーク蓄積の評価
抗体治療によって7~8割の
みのが正常化します。PET撮影
のみのご要望にもお応えて
おります。申し込みの詳細は、
ホームページをご参照ください。



脳神経内科
科長 荒若 繁樹
医長 中村 善胤
(なかむら よしつぐ)
他3名が担当

医療連携室からのお知らせ

Webからの初診予約申込のご案内

2024年10月運用開始以来、150件を超える
医療機関にご利用いただいております

医療機関さまは、基本情報を入力して、患者さんに紹介状をお渡しいただいたあと、紹介状を申込日当日中に画像送信またはFAX送信いただくだけで、紹介手続きは完了します。（日程調整は患者さんと当院で行います）。



24時間
365日
稼働



紹介元医療機関

STEP 1
紹介患者さまの情報を
yakubatoで入力
(PCまたはタブレット端末)



患者さま(家族)

STEP 2
Web予約URLをSMSで受診
希望の予約日時等を入力



STEP 3

患者さまの情報を病院が受診
確定日時を患者さまにSMSで連絡
(目安：3営業日内)

こちらの二次元バーコードから、
お申込みフォームへアクセスできます



<https://media.yakubato.jp/form-03>
メディア株式会社のフォームへ遷移します

2025年
10月より

オープン検査(CT・MRI検査)も
Web予約開始しました!



yakubato

オープン検査開始

yakubatoがさらに
便利になりました!



詳細はこちら



連携医療機関登録制度のご案内

地域の医療機関の皆さまと大阪医科薬科大学病院が相互に協力し地域医療の充実と発展を目的に、相互の活性化および患者さんにとって良質な医療とサービスを提供するために「連携医療機関登録制度」を平成25年10月より運用いたしました。

お申込み手順

1 | 連携医療機関登録申込書請求用紙のダウンロード

「連携医療機関登録申込書請求用紙」PDFをインターネットからダウンロードしてください。

連携医療機関
登録申込書
請求用紙>>>



2 | 連携医療機関登録申込書請求用紙をFAXする

必要事項をご記入のうえ、医療連携室にFAXしてください。折り返し、本院より「連携医療機関申込書」等をお送りします。



3 | 申込書を郵送する

内容をご確認のうえ、ご希望の医療機関さまは必要事項を記入して郵送にて医療連携室にお送りください。



4 | 連携証と連携プレートを受け取る

『連携証』と『連携プレート』をお届け、またはご郵送いたします。貴院にご掲示ください。



入院手続きから療養に関するご相談まで

「患者サポートエリア」のご紹介 No.2 おくすり相談編



本館移転後、薬剤師が患者サポートエリアに常駐する体制となり、隣接するおくすり窓口と合わせて、従来の調剤・交付中心の役割から、相談・支援を担う“地域連携のハブ”へと機能を拡張しています。多職種協働で患者さんからの情報収集や薬歴作成を行い、入院前から継続的な薬物治療を支援しています。また、通院・入院時には処方監査や疑義照会を通じて医師と協働し、治療方針に応じた薬物療法の最適化を図っています。調整後の薬歴・薬剤情報は多職種と共有し、退院後まで切れ目のない薬剤管理を実現します。ポリファーマシーについては“削減”ではなく“最適化”を重視し、地域全体の適正使用を推進しています。退院・転院時にお渡ししている「薬剤管理サマリー」は診療情報提供書を補完する重要なツールです。“顔の見える薬剤師”として、地域の皆さまとともに薬剤安全の輪（和）を広げていきたいと考えています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

ケア移行時の薬剤安全を、次につなぐ 薬剤安全のバトンパス

「おくすり交付窓口」から「おくすり窓口」へ
● 調剤・交付から、相談・支援へ

患者サポートエリアで行う多職種協働の
おくすり相談 (Medication Check-up)

- 情報収集・薬歴作成
→ 患者、かかりつけ薬局と連携
- 処方監査・疑義照会（調整・提案）
→ 医師と協働
- 調整後の薬歴・薬剤情報の共有
→ 患者、医師・看護師など多職種と共有



受賞のお知らせ

病院本館のデジタルアートミュージアムが「ART&BUSINESS AWARD 2025」 ニューアートビジネス部門 ファイナリストに選出

経済産業省とForbes JAPANによる、企業によるアートやアーティストの共創を通じた新たな経済的価値創造の取り組みを促進することを目的としたアワードプロジェクト、「ART & BUSINESS AWARD 2025」において、昨年7月に病院本館に導入した、「ホスピタルアートプロジェクト」がファイナリストに選出されました。病院本館は「すべての利用者にとって温かい病院」を目指し、バイオフィリアの考えを取り入れ、高槻の風土をモチーフとした多くの作家によるホスピタルアートを導入しています。



肝疾患センター 今後のイベントのご案内 (要事前申込)

- 2026.3/12(木) 15:00～ (会場) 本院第5会議室 (2号館5階)
【第4回】肝臓病教室及び家族講座「肝細胞がん」
- 2026.3/28(土) 10:00～ (会場) 高槻中学校／高校
肝疾患のための料理教室

詳しくは肝疾患センターホームページをご確認ください。>>



WEB紹介予約申込

紹介元の医療機関より基本情報を入力のうえ、患者さんに紹介状をお渡しいただき、紹介状を申込当日中に画像送信またはFAX送信いただくだけで、手続きは完了します。

日程調整は患者さんと本院で行います。

[詳細はこちら>>](#)

※今まで通りFAX紹介申込もご利用いただけます。

24時間
365日
申込可！



広域医療連携センター 医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
平日/8:30～19:00

土曜日/8:30～12:40 (第2・第4土曜日休診)

TEL.072-683-1221 (代表)内線2308

TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)

FAX.072-684-6339 (医療連携室直通)